

儲 叶明 (チヨ ヨウメイ)

中国出身

筑波大学 人文社会科学研究科国際日本研究専攻 博士課程

①研究について

今月の15日に、4月11日から二ヶ月強をかけて(自粛期間を全て利用して)執筆した原稿は、ようやく投稿されました。が、一息つくのはまだまだ早い。博論を仕上げるためには、投稿論文は少なくともあと二本必要だからです。要するに、新しい研究は後二つ必要です。これから残された時間を考えると、気を緩めるところか、まさに「緊急事態」です。それから、今回の投稿は、一回目の返事が来るまでおよそ三か月かかります(なので9月の半ばと推測しています)。文系の博士号が取りにくい理由の一つとして、理系と比較して、この投稿のプロセスの冗長さが挙げられます。理系は投稿する場合、平均2-3か月で採用/不採用が決定されますが、文系(といっても私がいる言語学分野だが)の場合はまともな学会であれば、2-3か月は通常一回目の返事しかきていません。採用されるまでは二、三回のやり取り(再投稿-再審査-修正稿提出-入稿修正)が必要なので、投稿から採用まで、概ね一年間が必要となります(これはあくまでも、「採用された場合」の計算となります)。そのほか、学会の口頭発表との調整(投稿済み(審査中も含めて)の内容は口頭発表に応募できないため)、口頭発表の準備を考えると、博士課程の限られた三年間で、査読付きの学会誌に論文を3-4本載せるのもはや限界に近いです。そのため、時間が足

りなく、延期するケースもよくあります。なので、研究のプロセス自体を楽しめる体質でないと、博士後期課程で憂鬱になるのもおかしくありません。以上、文系博士現状の報告でした(笑)。



②生活について

緊急事態宣言は解除されましたけど、まだ外出は週一回の買い出しにとどまる程度で、東京に行ったことはありません(行きたいのですが、往復2時間以上の移動時間(密閉時間)を考えると、控えました)。東京もこの二週間は感染者数の2桁水準が続いたり、アラートになったりしていますので、まだまだ気を緩めるところではない、と思いつつ、いつ本格的に収束するのだろうかとか若干鬱な気分もあります。この気分に合わせてように、日本の各地もすでに梅雨の時期に入りましたが、これからも蒸し暑く、湿度の高い時期が続くでしょう。個人的には梅雨が苦手です

(笑)。しかし、この季節でも愛想がよい一面があります。たとえば、現在宿泊している施設の周りに紫陽花がたくさん咲いたので、とても可愛かったです。

③ことばの運用における「規範性」(いわゆる、語用論)

今月は気分転換?として、ことばに関するお話をしたいと思います。

まず、以下の場面を想像してみてください。

1. 部屋から出ようと思って、不意にドアに頭をぶつけてしまった場合、その瞬間、日本人は何を言うのでしょうか?

おそらく、「痛っ!」ではないかと思います。

2. テーブルの上にあるコップを取ろうとして、沸かしたばかりのお湯が手にかかった場合、その瞬間、何を言うのでしょうか?

おそらく、「熱っ!」、ですよね。

どこが不思議なの?という疑問があるかもしれませんが、これらの場面は、「突発的な」状況(冷静に判断する余裕がない状況)にもかかわらず、日本人は「冷静に」(実は無意識のうちに)「どの感覚なのか」を峻別してからことばを表出しているところが不思議なのです。

ほかの言語と比較すると、より理解しやすくなります。

例えば、英語の場合は、以上の場面では、いずれも、「Ouch!」と言います。中国語で

も、「哎呦!」(あう!)と言います。中国語では、「痛っ!/あつっ!」も言わなくはないが、以下のように若干の文脈が必要となってきます。

A: あう!

B: どうしたの?

A: 痛っ!/あつっ!

もしくは、(看護師さんが注射してくれる場面で)、腕に針が刺さった瞬間、「哎呦、疼!」(あー痛い!/いたっ!)ともいいます。

要するに、相手がいて、その相手に自分の感覚を説明する時に、「痛い/熱い」が使われます。従って、基本的に、日本語母語話者が以上の場面で「いたっ!あつっ!」と独り言で発する場合、中国語母語話者の感覚からみれば、「誰に伝えているの?」と若干不思議に思うのです。

逆に、より日本人らしい日本語を覚えようとする中国語母語話者は、このような突発的な場面においても、自然に口から「いたっ!」「あつっ!」を発するには、普段からかなり「日本人らしさ」を意識する必要があります。

ことばって不思議なものですね(笑)。

このような「痛い/熱い」という感覚語彙と、「哎呦!」/「Ouch!」という感動詞の使用における「規範」は、言語によって異なってきます。母語話者は気づかぬうちにその規範性に影響されてしまうのです。まとめると、以下の表1のようになります。

英語や中国語における選好、突発的表出→「感動詞」、説明的表出→「感覚語彙」

日本語における選好、突発的表出→「感覚語彙」、説明的表出→「感覚語彙」

なお、「痛っ!/痛い」の差について、ドアにぶつけたときは「痛っ!」で、痛いところを触れられたときは「痛い!」のように、いずれも「感覚語彙」の内部での差異化として考えられる(滝浦 2018)とされています。

表 1 感覚語彙と感動詞の使用相違

| | 突発的表出 | 説明的表出 |
|--------|-------|-------|
| 日本語 | 感覚語彙 | 感覚語彙 |
| 中国語と英語 | 感動詞 | 感覚語彙 |

(滝浦 2018)

以上、ちょっとした言語運用レベルの「規範性」の話でした(笑)。

今月は、紫陽花(左)と、つくば駅の夕焼けの写真を添付いたします。



〈参考文献〉

滝浦真人(2018)「言葉と感情の微妙な関係を詮索する：自然さの選好と対照語用論の可能性」、名古屋大学、人文学研究科/文学部、言語学分野公開講演会